

地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 前期 第10回)のご案内

雑微動地震学

Ambient Noise Seismology

大見 士朗

京都大学・防災研究所 地震防災研究部門

これまで地震観測の厄介者扱いされていた、地震観測記録の中の雑微動の、自己相関関数・相互相関関数を用いることにより、地下構造を推定する手法が昨今脚光を浴びている。この手法は元来は地震波干渉法の応用として発展してきたものであるが、現在では「雑微動地震学」という名前を冠せられるほどに裾野が広がってきた。巨大な地震観測網が長期にわたって生産する膨大な地動信号データのすべてを計算機に放り込むことで、これまでゴミだと思われていたデータから有用な情報が浮かび上がってくるおもしろさを紹介する。また、この手法の適用例として、地下構造の時間変化や特定の反射面からの反射波フェイズの検出等の実例や、本手法の将来への展望等についても述べる。

6月27日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室